

●英語教師のための夏休み英語合宿

生きた英語、プラス活発な情報交換

外国語教育の研究機関である LIOJ (Language Institute of Japan) は毎年夏、ジャパントイムズ後援で英語教育者のためのワークショップを開催している。今年も8月9日から神奈川県小田原市で開催され、全国から70名を超す先生方が集まった。

LIOJ Summer Workshop は、神奈川県小田原市のアジアセンターで8月9日から14日にわたって開かれた。小田原駅から車で5分ほど山の手に上がった緑に囲まれたセンターからは小田原市が一望できる。都会の喧噪から離れた静かなところだ。

今年、このワークショップは30回目という節目を迎えた。その記念に、産能大学の小林薫教授を招いてシンポジウムを開き、「アジアと日本の英語教育について」の話し合いの場が、ワークショップに先だって持たれた。

ワークショップには全国から中・高・短・大の英語教師72名が集まった。また、アジアの国々からも8名の英語教師がプレゼンターとして招かれた。参加者の平均年齢は42.9歳と少し高いような気がするが、これは「何年にもわたって参加するリピーターが多いため」だそう。ちなみに今回の参加者の中でリピーターは35名。

費用は約12万円。参加者は、宿泊施設も兼ねるアジアセンターで約1週間寝食をともにするのだが、期間中、英語以外の言語の使用は禁止されている。

朝9時から12時まで Morning class、午後は1時半から3時までと4時半から6時まで2回のプレゼンテーションというのが基本的なスケジュールで、

夕食以降は日によってプレゼンテーションやその他のアクティビティーが行なわれる。

Morning class は、全部で6クラス用意されている。内容は“Making Your Classroom Come Alive!”といった、すぐに授業で生かせそうな実践的なものばかり。

午後のプレゼンテーションも、プレゼンターの経験や実際の授業内容を発表するというもので、参加者は何かしら新しい授業のヒントが得られそうだ。

拝見したプレゼンテーションでそのユニークさにびっくりしたのが、ウィリアム・アクトン先生(名古屋商科大学)の“Hard Rock English: Lyrics and Lessons”だ。ESLクラスに現代音楽を効果的に取り入れるというもので、若者が好みそうなハードロックの歌詞を授業に生かすテクニックが発表された。

先生もプレゼンターも参加者も、食事はカフェテリアで一緒にとる。だから食事は、英語教育についての討論タイムとなり、各自の経験や学校が抱える問題などについて(もちろん)英語で話し合う。

ランチタイムを利用して参加者に感想を聞いた。松尾宏子さん(26)は、

“Traveling in foreign countries, we can get an opportunity to speak in English but here we can learn how to teach English more communicatively or get to know skills to make students active or make class more interesting.”

と、熱っぽく語った。

ほかの参加者たちも一樣に、このワークショップが自分たちの授業の刺激になると言い、来年も参加したいと、すでに次回を楽しみにしている様子だった。

この日は夕食後、International Night という、地元の子供や外国人を招いて各国のお披露目パーティーが催され、会場となったセンターのメインホールはインターナショナルな雰囲気包まれた。だれも帰る気配のない大盛況のパーティー、いったいいつまで続いたのだろうか？

(南)

ウィリアム・アクトン先生のプレゼンテーションは、ハードロック音楽を授業でどう生かすか。参加者は先生のギターに併せて歌って踊る

